



留萌市立病院は、市民の皆さんが安心して受診いただける
医療体制づくりを進めています

年頭あいさつ



留萌市立病院長
菅川 裕

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、市民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら、市立病院を運営してまいりました。また、地域センター病院である留萌市立病院を守るため、経営の強化に努力してきたところでございます。

この間、私の大きな目標といたしましては、医師確保を実現することでありました。全国的な医師の偏在による地方での医師不足は、地域医療の崩壊へと繋がるもので大変

厳しい状況が今も続いております。

このような状況の中、平成21年度は脳神経外科2名、平成22年度は循環器内科3名の診療体制を確立し、地域住民にとって最大の課題でありました脳神経外科、循環器内科の診療体制の充実を図ることができました。その一方で平成22年度は泌尿器科固定医2名が他の病院へ異動することとなり、一部診療科で市民の不安を招いている事態が生じています。

私は、医師確保の最優先事項として、泌尿器科固定医の確保を目指すとともに病院経営の安定化を図っていくことを大きな目標とし、市民の皆さんが安心して暮らせる市立病院づくりに努力してまいりますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

着任あいさつ

循環器内科 医局長 大蔵 美奈子



留萌市立病院は、「地域センター病院」として、地域医療に貢献するという大きな使命を持っています。そのためには、いかにして医師を確保し、地域医療を守り抜くかが最重要課題であります。

特に直接生死に関わる循環器内科医の充足は、緊急を要する課題でしたが、平成22年4月に高橋副院長、會田医師を迎え、同年10月には大蔵医師が加わり、現在3名体制で診療を行っています。今後もこの体制を維持し地域医療に貢献するとともに市民の皆さんが安心して暮らせるよう努力していきます。

昨年10月より留萌市立病院循環器内科勤務となりました。異動前は、市立旭川病院の循環器内科に所属、旭川市内はもちろんですが、ここ留萌市や富良野市といった周辺地域から、急性心筋梗塞症などの緊急患者さんを受け入れ、治療を担当させていただいておりました。

こういうわけで、外来患者さんの中には、私が旭川で担当させていただいた患者さんがちらほら受診され、お元気な姿を確認でき、とても喜ばしく思っている次第です。

ご存知の通り、留萌市立病院の循環器内科は、医師不足のため、一時期、病棟を閉鎖せざるを得ませんでした。が、病院の努力により、本年度より二人の常勤医が赴任し、病棟が再開されました。

私は、これまで主に、狭心

症、心筋梗塞症といった虚血性心疾患を対象として、カテーテル治療などを含めた診療に携わってきました。これらの経験を活かし、今回当院での心臓カテーテル検査、カテーテル治療の再開も果たし、旭川市や札幌市の循環器内科、心臓血管外科の先生たちにもご協力いただきながら、少しずつですが充実した循環器科的診療を確立しつつあります。

心臓の病気の中で重症かつ最もポピュラーと言える急性心筋梗塞症の患者さんは、可能な限り発症から早期に血流を再開すべく、緊急的に血管形成術を行えるかどうか、患者さんの生死はもちろん、その先の人生を左右します。

そして急性期を乗り切るためには様々な管理が必要です。当院ではまだ、このような心血管系の緊急患者を受け入れる

には体制が不十分であり、これをクリアすることが、今後の大きな目標であります。看護師、臨床工学師などの人員不足、また、管理モニターなどの医療機器の不足などを充填していくことが最優先課題です。

そこですが、留萌市あるいは、近郊にお住まいで、現在、休職中の看護師さん、臨床工学師さんはいらっしゃいませんか。あるいは、これから看護師、臨床工学士を目指している皆さんは、もう就職先は決めましたか。誰か知りませんでしょうか。是非、留萌市立病院への就職をご検討くださいませ。また、医療機器の購入についてご協力していただける方、大歓迎です。よろしくお願い申し上げます。

＝循環器内科医 3 名体制で診療が充実＝

